

平成 25・26 年度

沖縄県教育委員会学力向上対策研究指定校

# 研究報告書

研究テーマ

「言語活動の充実による、  
思考力、判断力、表現力の育成」



# 研究報告書

沖縄県立 北山高等学校

## I 研究主題

言語活動の充実による，思考力，判断力，表現力の育成

## II 研究主題の設定理由

全国学力テスト等の結果から，本県の学力向上は大きな課題となっている。本校においても入試の平均点は年々低下傾向にあり，生徒の入学時の学力不足は課題の一つである。その対策として，少人数を活かし充実した個別指導での対応をはじめ，10分間の朝学習，放課後学習会の実施，学寮での学習時間の設定，考查結果席次の発表など，様々な取り組みを実施しているところである。その結果，単位保留科目保持者数および単位保留科目数の減少や90%を超える進路決定率など一定の成果が表れている。

本県の過去5年間の学力向上対策研究指定校の研究をたどると，学校教育法第30条2項で提示されている学力の重要な3つの要素である，(1)基礎的・基本的な知識・技能，(2)課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等，(3)主体的に学習に取り組む態度，のうち，(1)と(3)を研究の対象としており，(2)の思考力，判断力，表現力の育成をテーマにした学校がない。そこで，本校は学力の重要な3つの要素のうち，これまであまり研究の対象となっていない「思考力，判断力，表現力」の育成を研究対象とした。その理由は，本校の生徒の実態が，自分の考えを根拠をもとに発表する力が弱く，面接や小論文が苦手なために進路変更をする生徒もいる状況であること，また，新学習指導要領の平成25年度実施に伴い，すべての教育活動において「言語活動の充実」が求められていることからである。「言語活動の充実」は，平成20年の中央教育審議会答申において「学習指導要領の改訂に当たって充実すべき重要事項の第1として」挙げられ，新学習指導要領の総則で明確に位置づけられた。しかし，そもそもなぜ，「言語活動の充実」が求められているのか，それを充実させるということはどういうことかなど，よく理解されているとは言えない。そこで，言語活動の充実による「思考力，判断力，表現力」の育成について他校の参考となる研究を目指したい。

## III 研究の内容

### 1 研究計画

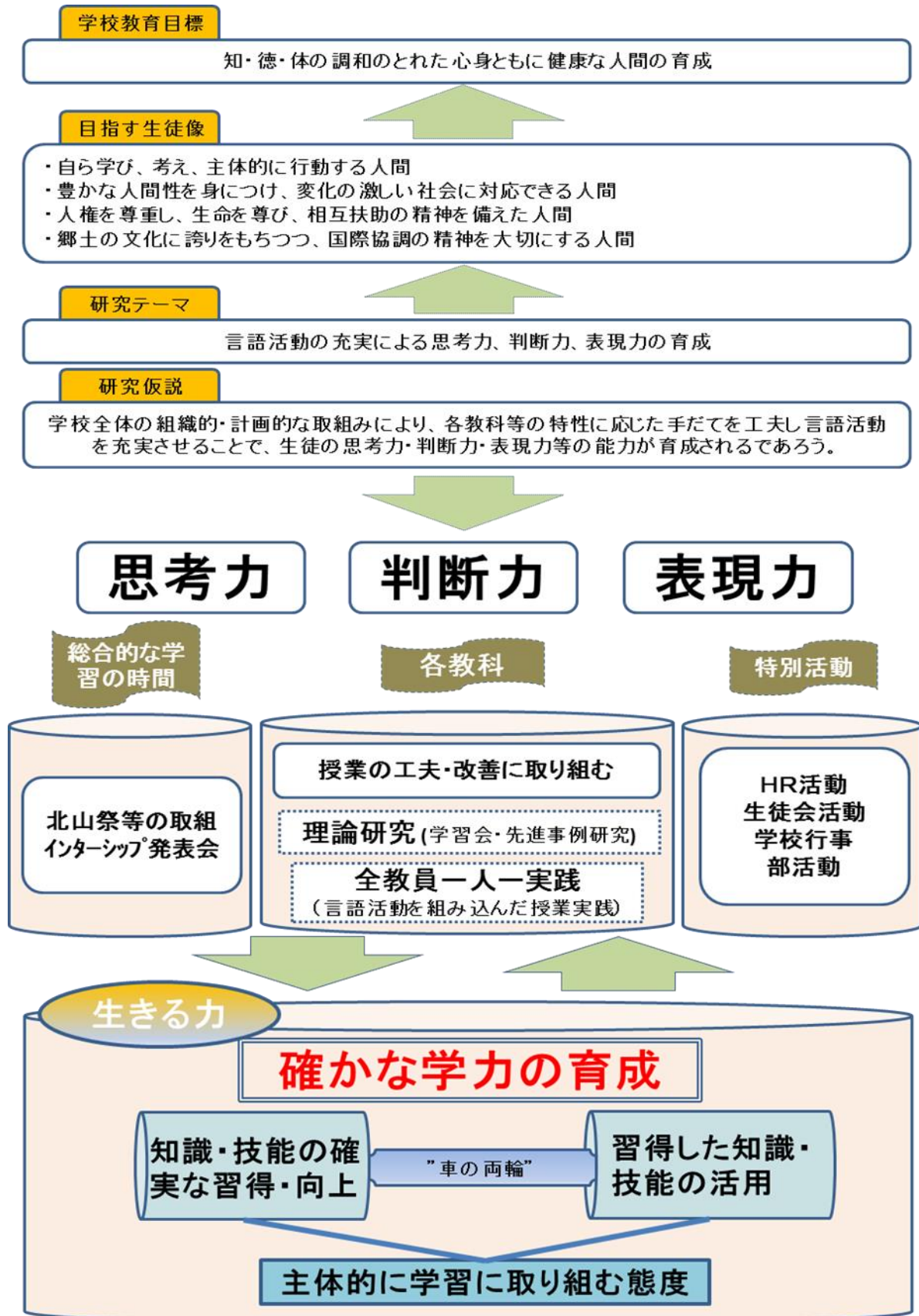
#### (1) 研究仮説

学校全体の組織的・計画的な取組により，各教科等の特性に応じた授業展開を工夫し，言語活動を充実させることで，生徒の思考力・判断力・表現力等の能力が育成されるであろう。

#### (2) 仮説の検証方法

生徒および職員へ思考力・判断力・表現力に関するアンケートを実施し，その分析を行う。

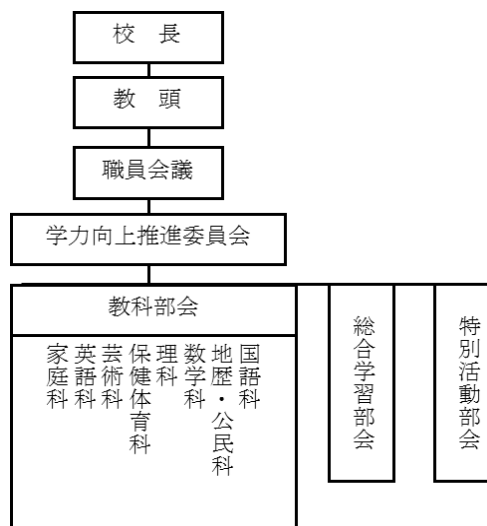
(3)研究構想図



#### (4) 研究組織と各部の取り組み

##### ①学力向上推進委員会

- ・研究についての提案
- ・生徒、職員アンケートの実施、集計と分析
- ・外部講師を活用しての研修会の企画、実施
- ・先進事例等を利用した事例研究会の企画、実施
- ・資料（高等学校学習指導要領解説・評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料）の購入・配布
- ・研究のまとめと研究報告書の作成
- ・その他、研究に関すること



##### ②教科部会

- ・言語活動を組み込んだ指導案の作成及び授業実践（全教員 1～2 実践）
- ・教科ごとの研究授業の実施と工夫・改善の取組み（各教科 1 研究授業）

##### ③特別活動部会・総合学習部会

- ・言語活動の充実のための日常的な活動への取組み
- ・リーダー研修の実践（生徒会活動）
- ・生徒総会の実践（生徒会活動）
- ・インターシップ発表会の実践（総合的な学習）
- ・北山祭の取組み
- ・SHR でのスピーチ（HR 活動）
- ・その他、総合学習な学習、特別活動に関すること

## 2 研究経過

平成 25 年度

5 月 職員アンケートの実施

職員研修(1)

- 研修内容 ①言語活動の充実が求められるようになった経緯と必要性  
②評価方法  
③各教科の実践事例

講師 国語：田名裕治 指導主事  
数学：金城栄一 指導主事  
社会：當間文隆 指導主事  
英語：島田純 主任指導主事  
理科：玉木亨 指導主事， 赤嶺信一 指導主事

6 月 先進校視察（福岡県立筑紫高等学校）

生徒アンケートの実施

7 月 総合学習：勉強の仕方（付箋紙を用いたグループ討議）

職員研修(2)

- 研修内容 ①先進校視察報告「福岡県立筑紫高等学校」  
②学習指導案の作成

報告者 松田唯之 教諭 古謝聖 教諭 山里真理 教諭  
講師 田名裕治 指導主事  
玉木 亨 指導主事  
仲吉健一 指導主事

オープンスクール（生徒が主体となった学校紹介・懇談会）

- 8月 職員研修(3)  
研修内容 国語力向上指導者養成研修報告  
報告者 赤嶺剛 教諭 外間真理子 教諭
- 9月 指導要領，評価に関する資料の購入，配布  
HRに論理的表現の5か条掲示  
研究授業，各教科による授業検討会（～11月）  
生徒，職員アンケートの結果報告
- 10月 職員研修(4)  
研修内容 ①研究授業 ②文部科学調査官講話  
授業者 赤嶺剛 教諭  
講師 杉本直美 学力・教育課程調査官  
演題 言語活動の充実と学力の向上
- 北山祭のHR総括  
北山祭の全体総括
- 11月 先進校視察（京都府立堀川高等学校）  
中間報告に向けた職員アンケートの実施
- 12月 インターンシップ発表会  
職員研修(5)  
研修内容 先進校視察報告「京都府立堀川高等学校」  
報告者 上間一人 教諭 我喜屋亮 教諭

職員研修(6)  
「これまでの取り組みの成果と課題」

- 1月 中間報告会  
2月 中間アンケートの実施，集計と分析  
3月 各教科において言語活動を取り入れた年間指導計画の作成

平成26年度

- 4月 職員研修(1)  
研修内容 ①昨年度までの取り組み，成果と課題  
②今年度の重点を置くべき事項
- 6月 生徒アンケートの実施（1学年のみ）  
職員アンケートの実施  
研究授業：非常勤を除く全教員が指導案(略案)を作成し校内で公開

- 7月 英語担当者中高連携研修会 公開授業  
オープンスクール（生徒が主体となった学校紹介・懇談会）
- 8月 言語活動の充実に向けた消耗品の購入（各教科）
- 9月 先進校視察  
神奈川県立高校3校（光陵高校，横浜栄高校，横浜国際高校）  
参加者 新里義和 教頭 山里真理 教諭 玉那覇峻 教諭
- 10月 研究授業：指導案(細案)を作成し校内で授業を公開（～12月）  
職員研修(2)  
研修内容 先進校視察報告  
報告者 玉那覇峻 教諭 山里真理 教諭
- 職員研修(3)  
研修内容 教育課程調査官講話  
講師 杉本直美 先生 国立教育政策研究所 学力調査官  
演題 各教科等で実践する言語活動と学習評価
- 北山祭HR総括  
北山祭全体総括
- 11月 公開授業：12名の教諭が研究授業を公開  
授業研究会  
報告者：国語 東恩納祥乃 教諭 数学 上間一人 教諭  
英語 根川真木子 教諭  
講師：国語 田名裕治 指導主事 数学 金城栄一 指導主事  
英語 玉城光師 指導主事
- 生徒アンケート(最終)を実施（全学年）  
職員アンケート(最終)を実施
- 12月 アンケート結果の分析
- 1月 各教科の研究報告書作成，最終報告書の原稿作成
- 2月 最終報告会

## IV 研究の成果と課題

### 1 成果

#### (1)生徒の変容

- ・アイデアを出したり，話し合いのときに他者の意見を聞いたりすることを得意だと感じる生徒が増えている。
- ・生徒は様々な教科の授業でグループ活動やペア活動を行い，場数をこなすことで発表に対する苦手意識が小さくなり，参加型の授業展開に慣れてきた。
- ・グループ活動が活発になり，プレゼン能力が高まった生徒もいる。授業展開の工夫が生徒の思考力・判断力・表現力を育成するための土台をつくったと考えられる。

## (2)組織的な取り組み

- ・平成26年度は全教科で言語活動を充実させた授業を年間指導計画的に組み入れた。各職員が言語活動の充実を意識しながら教材と向き合い、一方的な指導だけではない生徒主体の授業を生み出している。
- ・評価に対する意識の変化がみられ、授業改善のための評価の工夫が行われた。
- ・教科教育、学年の活動、生徒会活動、学校行事、総合学習などあらゆる場面で言語活動を生かした取組が実施された。話し合いや発表を中心とした活動が活発になり、生徒の自主性や思考力を高めることに寄与した。
- ・各教科で研究がなされ、グループ活動を主とした言語活動の方法が多様になった。個人で取り組む言語活動もさまざまなものが実践され、一定の成果を得ている。
- ・2年間で計3回、全職員による公開授業を実施し、教科間での情報交換や議論を活発にして研究を深めた。
- ・職員研修や先進校視察報告を通して他県の取り組みや最新の教育事情と言語活動とのかかわりについて学ぶことができた。

## 2 課題

### (1)「思考力・判断力・表現力」の向上

- ・研究開始当初より減ったものの、依然として約半数の生徒が文章や言葉で伝えることに苦手意識をもっている。発表は活発だが、理由をつけて説明する力の育成に課題があるという分析をした教科が複数あった。
- ・語彙力が不足している生徒、基礎学力の身に付いていない生徒への支援の難しさがある。グループ活動での無関係な私語が増えてきたとの指摘もある。

### (2)指導計画について

- ・思考力・判断力・表現力を評価するときの負担が大きかった。これまでの職員研修を踏まえ、評価実践の具体的な方法について各教科で再考し確立していく必要がある。
- ・言語活動を充実させることによって授業の進度が遅れたり、基礎・基本との習得とのバランスに苦慮する教科があった。時間のかかるグループ活動等は精選して指導計画に組み入れなければならない。
- ・次年度以降も言語活動を充実させた指導の継続が必須である。教科等で研究内容や課題をしっかりと引き継げるようにする。

## 参考文献

- 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について  
(答申)平成20年1月17日・・・中央教育審議会
- 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示・・・文部科学省
- 平成25・26年度沖縄県教育委員会研究指定校 学力向上対策研究校中間報告書 平成26年1月28日・・・沖縄県立北山高等学校
- 平成25・26年度沖縄県教育委員会学力向上対策研究指定校 研究紀要 平成27年2月9日・・・沖縄県立北山高等学校